

# 阿賀野川自然再生検討会（第3回）

## 議事要旨

### 【開催概要】

開催日時： 平成 25 年 1 月 22 日（火）14:00～16:00

開催場所： 阿賀野川河川事務所 2 階会議室

### 【議事次第】

1. 開会
2. 議事
  - ・ 第 2 回阿賀野川自然再生検討会 議事要旨
  - ・ 平成 24 年度河川水辺の国勢調査（植物）結果速報（報告）
  - ・ 阿賀野川自然再生計画書（案）の目標指標と今後の事業の進め方
  - ・ H25 施工予定箇所（焼山地区）の設計案及び地域連携等について
  - ・ 小阿賀樋門及び満願寺閘門の魚道機能における懸案事項について
  - ・ その他
3. 閉会

### 【審議内容】

事務局より、平成 24 年度河川水辺の国勢調査（植物）結果速報、阿賀野川自然再生計画書（案）の目標指標と今後の事業の進め方、H25 施工予定箇所（焼山地区）の設計案及び地域連携、小阿賀樋門及び満願寺閘門の魚道機能における懸案事項等について説明した。議事の内容は以下の通り。

- （1）平成 24 年度河川水辺の国勢調査（植物）結果速報（報告）について
  - 1）昨年度の調査結果に比べ、今年度の調査結果で重要種の確認個体数が大幅に増加しているが、これは H23 年 7 月豪雨によって攪乱が生じたことによるものと考えられる。
  - 2）良い調査データが取れているので、5 年毎の水国の調査だけではなく、可能な範囲で詳細な追跡調査をした方がよい。
- （2）阿賀野川自然再生計画書（案）の目標指標と今後の事業の進め方について
  - 1）水ヶ曽根地区は、かつて複列砂州となっていて、ワンドの消長が繰り返されていた場所である。砂礫河原再生に伴うワンドの再生については、複列砂州形成のメカニズム等の調査・研究を踏まえ、高水敷や未利用地に少し手を加えることによって、ワンドが再生できると期待している。ただし、研究途上であるので、更に実験等を積み重ねていく必要がある。
  - 2）前回の検討会以降の研究で、低水路が護岸で固定されているか否かが、河川の様相を決める重要な因子であるということが分かってきた。低水護岸で固定されていたとしても、石や粗朶沈床等を配置して拡縮を作ることにより、複数流路が形成される可能性がある。また、阿賀野川の実際の平面形状でシミュレーションを行った所、横断形状がある程度再現できた。阿賀野川の複列砂洲・ワンド形成のメカニズム解明につながるかもしれない。
  - 3）早出川に係る指標としては、緩流域が形成され、水生植物が繁茂することにより、トミヨ淡水型が生息できるようになることが一番よい。しかし、直轄区間にトミヨが本当に生息できていたのか、はっきりとは分かっていない。一方、ヤリタナゴは濁った場所にも、砂

礫河原にも生息する種なので、指標種に残しておいてよいだろう。つまり、早出川の指標を、「ミクリを含む多様な生物群集」などとしてはどうか。

(3) H25 施工予定箇所(焼山地区)の設計案及び地域連携等について

- 1) 最初は、人が手を加えて整備したとしても、その後は、出水や湧水等、自然に形づくられていくことが理想である。変化をモニタリングしながら、徐々に改善していけるとよい。昔を知っている地元の方のイメージとは大分違うかもしれないが、知見を得るための実験の意味も含めて、取り組んでいきたい。
- 2) 地元から防災センターの前のヨシ原を埋めないで欲しいとの要望が出ている。植物の観点からするとヨシ焼きは非常に重要であり、それにより植物相がとても多様になる。
- 3) 昔はかなり湧水が湧いていて、春の水位上昇時にイトヨがヨシやガツボ(マコモ)に産卵しにきていた。昨年、漁協の調査で松浜橋付近においてイトヨが見つかっているので、焼山地区にイトヨが戻ってくる可能性はある。事前に湧水量を調べておくことが望ましい。

(4) 小阿賀樋門及び満願寺閘門の魚道機能における懸案事項について

- 1) サクラマス・アユ・サケは、時期になると相当な数が遡上してくる。小阿賀川を經由して、せっかく上ってきたサケ等を遡上させるために、是非、連続性の確保に取り組んでもらいたい。

(5) その他

- 1) 自然再生計画書(案)の河川環境の概要で、河川区分毎の重要種の表にワカサギが入っているが、これは、ごく稀な発見事例であり、代表的ではないので記述から除くべき。

以上